

(仮称) 京ヶ森風力発電事業 計画段階環境配慮書に係る答申 (案)

1 全般的事項

- (1) 事業実施想定区域（以下「想定区域」という。）の大部分が硯上山万石浦県立自然公園に指定されており、一部が鳥獣保護区及び保安林にも指定されているほか、土石流危険渓流なども含まれている。また、想定区域の近隣には、イヌワシのつがいの生息も確認されている。

これらのことから、周辺の自然環境や生活環境への影響を回避又は十分に低減できるよう、想定区域の適切な絞り込みを行うこと。
- (2) 本事業との累積的な環境影響が懸念される他の風力発電事業等については、近隣で稼働中の施設を含め、今後、環境影響評価図書等の公開情報の収集や当該事業者との情報交換等に努め、累積的な環境影響について適切な予測及び評価を行うこと。また、その結果を踏まえ、風力発電設備及び取付道路等の附帯設備（以下「風力発電設備等」という。）の構造・配置又は位置・規模（以下「配置等」という。）を検討すること。
- (3) 想定区域の絞り込みに当たっては、風力発電設備等の配置等及び稼働並びに植生変化や人工緑地造成などによる動植物への影響や温室効果ガスの排出等、全体としての環境負荷の低減に最大限配慮すること。
- (4) 想定区域周辺の住民、立地する石巻市や女川町及び関係者に対して、環境影響に関する情報を積極的に提供するとともに、理解を得ながら事業を進めること。
- (5) 主要な眺望点や人と自然との触れあいの活動の場の調査地点として、影響が大きいと思われる地点が外されているように見受けられる。雄勝森林公園及び女川町フィールドアスレチック場等、多くの人々が訪れる場所並びに想定区域周辺住宅地等を大幅に追加すること。

2 個別的事項

- (1) 騒音、低周波音及び風車の影

想定区域近傍には住居等が存在することから、風車の稼働に伴う騒音、低周波音及び風車の影による生活環境への影響について調査、予測し、重大な影響の有無について評価した上で、影響を回避及び低減できるよう、想定区域の絞り込みを行うこと。
- (2) 地形及び地質

想定区域には、土砂災害警戒区域の上流域（土石流危険渓流）及び地すべり地形が存在するため、事業の実施による影響を予測及び評価し、重大な影響を回避又は十分に低減できない場合は、それらの箇所及び周辺を想定区域から除外すること。

(3) 動物

イ 想定区域近隣には、希少猛禽類であるイヌワシの生息が知られており、想定区域及びその周辺を行動圏としている可能性がある。このことから、関係団体及び専門家等からの助言も踏まえ、適切な調査手法を設定すること。

ロ 地表性の動物については、適切な調査手法を設定し、生息する種を把握すること。また、事業計画の具体化に当たっては、資材の輸送路等の新設や拡幅等の土地の改変による地表性の動物への影響に配慮すること。

(4) 植物

想定区域内には、自然度の高い植生が含まれないとしているが、自然環境保全基礎調査（第6回）では、自然度の高い群落（モミ林）の分布が確認されている。このため、現地調査により、この群落の区域を明らかにした上で、植物への影響を適切に予測及び評価すること。

(5) 景観

イ 想定区域及びその周辺は硯上山万石浦県立自然公園に指定されており、設置される風車は、女川町中心街及び石巻市雄勝地区中心街、石巻市中心市街地を含む広範囲から視認される可能性がある。さらに、想定区域周辺には高台移転地等により、標高が高くより視認性の高い市街地（宮ヶ崎、旭が丘等）が存在することから、これら市街地や想定区域周辺住居及び集落等、調査地点を大幅に追加すること。

ロ 黒森山及び石投山、硯上山は地域のシンボリックな山であることから、山容景観への影響を回避するよう、想定区域の絞り込みを行うこと。

ハ 女川町の最高峰である石投山の山頂は、金華山や出島、リアスの海岸地形を望む眺望点であり、みちのく潮風トレイル女川町ルートのコースにもなっていることから、景観への影響を適切に調査、予測及び評価すること。

ニ 風車による景観の圧迫感を考慮した上で、生活圏からの圍繞景観への影響を調査、予測及び評価し、適切に想定区域の絞り込みを行うこと。

ホ 鉄塔の見え方に関する基準を準用した場合、景観への影響が過小評価となることを避けるため、風車の稼働による誘目性を考慮し、適切に調査、予測及び評価すること。

(6) 人と自然との触れあいの活動の場

イ 想定区域内にはみちのく潮風トレイル女川町ルートが存在することから、事業の実施による影響を適切に調査、予測及び評価し、その影響を回避又は十分に低減すること。

ロ 雄勝森林公園及び女川町フィールドアスレチック場等，多くの人々が訪れる場所を調査地点として大幅に追加すること。

ハ 想定区域周辺にあるバードウォッチング等，静穏環境における利用を前提とした活動の場に対する風車の音の影響について，適切に調査，予測及び評価し，その影響を回避又は十分に低減すること。

(7) 放射線の量

イ 事業の実施に係る新たなホットスポットの形成や放射性物質の飛散・流出等による水環境・土壌・山菜，キノコ等の農産物への影響を調査，予測及び評価すること。

ロ 土壌の放射性物質濃度の調査方法は，すべての風力発電設備の設置予定箇所及び新設又は拡張する道路20メートル毎に，表面1センチメートル以内から検体を採取した上で，測定を行うこと。